

2015 年東北海区の海況の特徴

奥西武・寛茂穂・長谷川大介（東北水研）

関係各機関及び東北区水産研究所の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図、並びに NOAA 衛星の熱赤外面像、Jason-2・Envisat 衛星による海面高度観測結果に基づいた海況の経過の特徴を以下に述べる。なお、近海の黒潮北限位置は1954～2011年のデータを用いて統計値を計算し、平年並み等を定義している。親潮第1分枝先端緯度については、1960～2011年までのデータを用いて、平年並み等を定義している。

1. 2015年の海況の経過

表面水温

(1) 北海道沿岸および東北沿岸では1～4月、9～10月は低めで推移し、5～8月、11～12月は高めで推移した。

黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離接岸は1～2月、9月、12月は接岸、3月、5月、8月はやや接岸、4月、6月、7月、11月は平年並み、10月は離岸であった。
(2) 近海の黒潮の北限位置は、1月～9月はやや南偏～かなり南偏、5月に一時的に平年並みで推移し、10月はやや北偏に転じた。その後、11～12月は平年並みとなった。

混合水域

○黒潮系暖水

(1) 近海の北限位置は、1月～3月はやや南偏～かなり南偏で推移し、4月～7月はかなり北偏～やや北偏で推移し、8月～11月は平年並み、12月はやや南偏となった。

○暖水塊

2010年8月に常磐沖で認められ、2011年秋季より釧路沖で停滞している2010Gは、2005年（1～

12月）も釧路沖で停滞した。2015年1月に襟裳沖で確認された暖水塊2015Aは、4月まで停滞し、5月に消滅した。2015年1月に金華山はるか沖で認められた2015Bは、5月まで停滞し、6月には消滅した。2015年1月に常磐沖で確認された暖水塊2015Cは、3月に三陸沖に北上し、その後、停滞した。

親潮域

○親潮第1分枝

(1) 親潮第1分枝は、1月と9月は極めて北偏、2～5月、7月は平年並み、6月はやや北偏であった。8月、10～12月は確認できなかった。

(2) 第1分枝に連なる冷水が、1月、6月、9月に三陸沖に存在した。

○親潮第2分枝

親潮第2分枝の先端緯度は、4月、7月にやや北偏であった。それ以外の月は確認できなかった。

津軽暖流域

下北半島東方での張り出しは、2～11月はやや弱勢～やや強勢で推移し、12月は極めて強勢であった。

2015年における海況の特徴

(1) 表面水温は、冬季は低め基調、夏季は高め基調となった。

(2) 暖水塊2010Gが5年以上に維持されている。

(3) 近海の黒潮の張り出しは、概ね南偏傾向が持続した。

(4) 親潮第1分枝の張り出しは、5月までは平年並み、6月以降北偏傾向が続き、10月以降は検出できないほど北退した。